

資料④ 「思考力の育成をねらいとした「総合的な学習の時間」授業実践例」

☆2学年の単元 「地域・らっきょう発信学習」 (集団での思考の育成を目指して)

☆単元・授業について

本年度も発信媒体（地域情報誌）の完成を目指している。福部の魅力を自ら探究・発信していくことで、地域への誇り、地域への一員としての自覚を持たせ、将来福部とどのように関わっていけばよいかを考えさせ、職場体験学習にもつなげていくことも目指している。

本時の授業は今年の発信媒体（地域情報誌）に掲載していく「らっきょう」の項目を決めていく課題設定の段階の授業である。本時までには思考ツールのベン図を使って班（個人）で調べていきたい「らっきょう」のいろいろな項目を整理・分析しておく。本時は班（個人）で思考ツールを活用した後のクラス集団での思考を育成していく。ベン図については「らっきょう」の項目と「らっきょう」以外の項目と2つ作成しているが、本時は「らっきょう」の項目を思考する。教師は生徒の思考と思考をつなぐコーディネーター役となり、クラスで1つのベン図を作っていく。そして生徒の内容項目へのこだわりを引き出しながら集団での思考も育成していく。そのことで昨年度からのベーシックな思考の段階から高次な思考の段階へとつながり、個人の思考の再構成（深まり）につながるのではないかと期待する。

☆本時のねらい

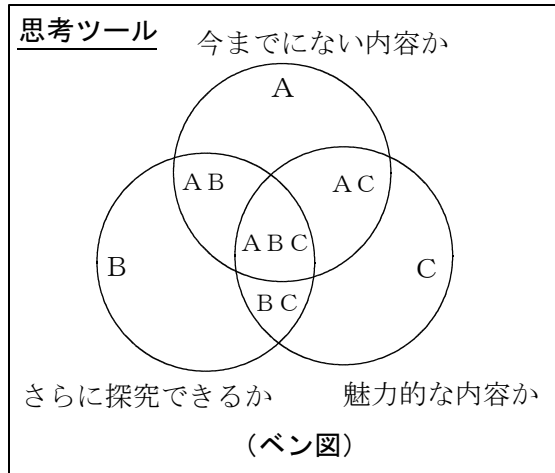
クラスで1つのベン図を作り発信媒体の内容を分析する活動を通して、他者の考えと比較しながら、自らの考えを再構成することができる。 【思考力】

☆授業展開

- ① 各班の班長が事前に班で考えた「らっきょう」に関するおすすめの項目2つをクラス用ベン図に掲示して、そのこだわりを説明する。
- ② 6つの班の発表後に、完成したクラスのベン図について、置かれた項目の位置が妥当かどうか、どのような傾向にあるのかなど教師が議論を仕向ける。
- ③ クラスのベン図を見て何か足りない情報や、内容の偏りがなければ見直しを行い、クラスで1つのベン図を完成する。
- ④ 授業の自己評価をする。（評価方法として思考ツールのベン図も用いる。）

☆思考ツールの開発と活用

思考ツールとしてベン図を活用した。生徒が探究する項目を3つの視点（「今までにない内容か」「さらに探究できるか」「魅力的な内容かどうか」）にしぼり、ベン図のどこに置くことができるか分類・関連付けることにした。班・個人の思考から集団の思考へ段階をあげ、クラスで1つのベン図を作成した。「らっきょう料理」「らっきょうと健康の関連」「他県のらっきょうとの比較」「らっきょうの起こり」「らっきょうに関わる人たち」など生徒が考えた項目がA～C、AB、AC、BC、ABCのどの位置にカテゴライズできるのか、またカテゴライズした位置は妥当なのか集団で議論することでクラスの思考の傾向を分析して、個人の思考の再構成を図ることができた。



資料③ 「思考力の育成をねらいとした「総合的な学習の時間」授業実践例」

☆1学年の単元 「地域・らっきょう探究学習」 (集団での思考の育成を目指して)

☆単元・授業について

本単元は思考力の育成だけでなく、地域の人たちと出会い、働くことの大変さややりがいを実感したりすることで、地域への愛着や興味を深め、地域社会に尽くす大切さや喜び・幸せを実感していくこともねらいとしている。具体的には本年度も「らっきょう」に関わる人たちへ班ごとにインタビューを行うことで情報を収集し、整理・分析を通して最後のまとめで班ごとにレポートを作成してクラスで一つの冊子にまとめ、発表会を行う。本時の授業はインタビューで得られた言葉の中から、最も印象的な言葉を選択していく整理・分析段階の授業である。インタビュー発表会プログラムの表紙に載せる言葉を班・個人から集団へと思考の段階を上げて、練り上げていく。集団の議論で、自分たちが得た情報をもとに感想や意見を加えてわかりやすく発表するためには、個々の思考の適切な分類や価値付けが必要であり、生徒の実態に合った思考ツールであるピラミッドチャートを用いた。事前学習で例を交えて使い方を説明したり、簡単なテーマについて練習させ習熟を図った。また、インタビューについてもお話を伺うにあたって、マナーや礼儀を指導し、気持ちのよいインタビューをするために気を付けることも考えさせた。

☆本時のねらい

班ごとにインタビューで得られた言葉をクラス全体でピラミッドチャートを作る活動を通して、他者の考えと比較しながら、新たな考えを持つことができる。 【思考力】

☆授業展開

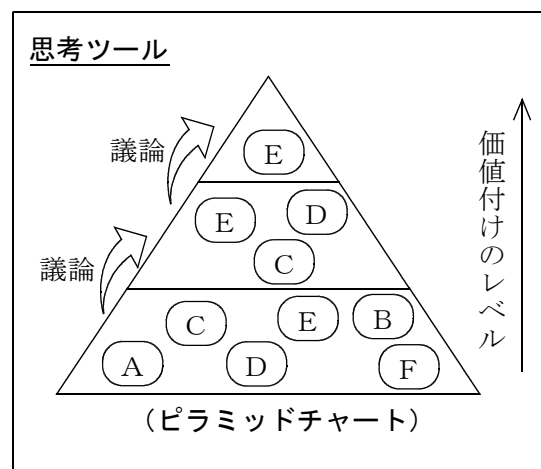
- ① 6つの班ごとにインタビューを通して印象に残った言葉を2つ選択して、その理由をふくめて全体の前で班発表を行い、ピラミッドチャートの下段の層に置く。
- ② 合計12個の言葉を「福部への思いが表れている」「らっきょうへの愛着が含まれている」などの視点をもとに班の話合いで6つに絞り、真ん中の層に上げる。
- ③ 真ん中の層の6つの言葉をクラス全体の話合いでひとつにしぼり、一番上の層に上げることでクラスでピラミッドチャートを完成する。
- ④ 授業の自己評価をする。(評価方法として思考ツールのピラミッドチャートも用いる。)

☆思考ツールの開発と活用

話合いを視覚的にわかりやすく進めるための思考ツールとしてピラミッドチャートを活用した。情報を焦点化・構造化していき、自分たちの思考の過程が視覚化されることによって集団内の共通理解を図り、思考力を高めることを期待する。

生徒は自己評価の中で自分の思考が集団での議論の中でどのように位置づけられるかが、ピラミッドチャートを通してよくわかったと振り返っており、仮に集団の議論で自分の発言がなくても思考力が深まっていることがわかる。

生徒の思考と思考を教師がどのようにつないでいくかが難しいが、多くの生徒の発言があり、生徒同士で思考をつなげていく場面もあった。



資料⑤ 「思考力の育成をねらいとした「総合的な学習の時間」授業実践例

☆2学年の単元 「地域・らっきょう発信学習」

☆単元・授業について

発信媒体（地域情報誌）に掲載する内容の中で「らっきょう」に関する項目はベン図を通して整理・分析したが、保健教育との関連から「らっきょうと健康の関わり」についてはさらに深めていきたいと考えた。本時の授業は自分の健康生活を食生活を中心に振り返り、「らっきょう」を食べることが自分の健康生活とどのように関わっているかを考える。そのことで発信媒体（地域情報誌）に掲載する内容を充実させていくための知識・情報を増やすことになる。よって情報収集の段階の授業として位置付けた。前時までに過去に実施したいろいろな生活習慣アンケートを振り返ることで、自分の生活を振り返る。その中で給食、朝食、偏食、間食、睡眠、疲労、ストレス、体調など多くの健康上の課題がクラス全体の傾向として浮かび上がる。そこで思考ツールとしてレーダーチャートを用いて、個人のレーダーチャートとクラスのレーダーチャートを比較することで、個人の思考の再構成を図ることにした。

☆本時のねらい

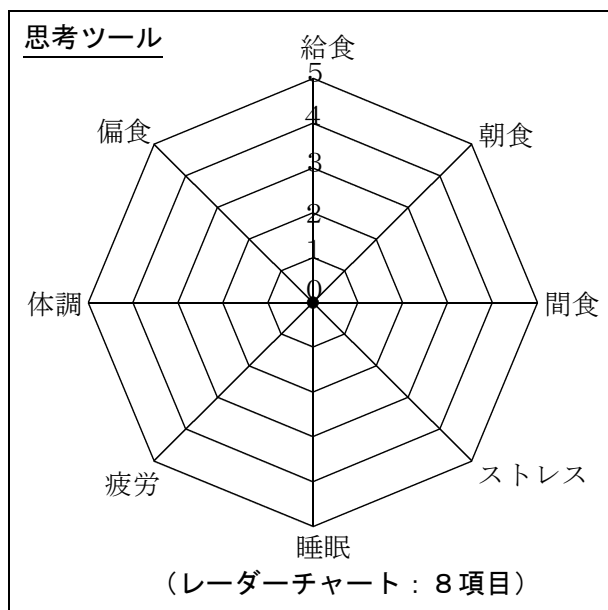
- ・健康増進について班員のアドバイスとクラス全体の考えから見直しができ、「らっきょう」の効果を自分の生活の中から見出すことができる。 【思考力】
- ・健康増進のために健康と「らっきょう」の関わりを日々の生活から考えていく意欲を持つことができる。 【自己を考える力】

☆授業展開

- ① 事前に記入した個人のレーダーチャートで自分の健康生活を振り返り、どこに問題があるのか再確認をする。
- ② 班になって、お互いのレーダーチャートを見せ合い、班員に健康改善に向けてのアドバイスを行う。
- ③ 全員の数値を平均化したクラス全体のレーダーチャートを提示して、自分のレーダーチャートと比較することで、自己の健康に対する問題点を深めていく。
- ④ 個々に調べ学習した資料をもとに「らっきょう」を食べることで、自己の健康増進について効果的などころはないか考える。(疲労回復、整腸作用、風邪防止、イライラ防止など)

☆思考ツールの開発と活用

思考ツールとして、正八角形のレーダーチャートを活用した。レーダーチャートは多くの教科でも思考を育成する場面で活用しており、生徒はクラスの健康生活の傾向をわかりやすく把握することができた。そしてレーダーチャートの自分の形とクラスの形を比較することで自分の思考を再構成することができ、自己の健康生活の問題点を分析することに役立つことができた。しかし項目が8個あるということで、③の授業展開の場面で視点が定めにくい部分が見られた。レーダーチャートの授業内容に合わせた項目数の設定は今後の課題である。



資料⑦

〔思考力の育成をねらいとした「総合的な学習の時間」授業実践例〕

☆3学年の単元 「福部の未来を伝えるCMづくり」 (集団での思考の育成を目指して)

☆単元・授業について

地域の魅力を探究・発信しながら思考力を育成していく取組を通して、福部中学校の生徒は生きる力を育てていく。生徒の探究意識が継続していく3年間の系統的な「総合的な学習の時間」の全体計画を作成しているが、中学校生活最後のまとめとしては「福部の未来を創造する」というテーマのもとに、CMづくりを行う。福部町の現状や課題を把握し、よりよい町にする手立てを創造し、未来への提言としてまとめることを通して、社会に生きる一員としての責任を果たし、地域に貢献していく態度を養う。インパクトのある形にして地域に伝えていくためにCMという動画形式で行う。本時の授業は「総合的な学習の時間」で学んだことをもとにして、福部町の現状と課題について各班で製作したCMをクラス全員で評価・議論していき、よりよいCMを作るためのアイデア・思考を深めていく整理・分析段階の授業である。前時までに各班は「自然」「観光」「農業(梨・らっきょう)」「人口(高齢化)」「人口(少子化)」「学校」というテーマのもとに、CMを完成させている。

☆本時のねらい

製作したCMの評価を整理・分析する活動を通して、CMの内容の再構成をするためのアイデアを出すことができる。【思考力】

☆授業展開

- ① CMで伝えたいメッセージは何かを考えさせながら、全員が各班が製作したCMを見る。
- ② メッセージがしっかりと伝わるCMにするために、どうすればよいかというそれぞれの班に向けての個人の考えを評価用付箋に書き出す。
- ③ クラス全員の評価用付箋を黒板掲示用の観点別の評価表に貼っていき、クラス全体の評価の傾向をまとめる。
- ④ クラス全体の観点別の評価表をもとにして、CMを再構成するアイデアを全員で議論をしながら出していく。

☆思考ツールの開発と活用

思考ツールとして観点別の評価表を活用した。まず個人で「メッセージは適当か」「メッセージは伝わっているか」「魅力があるか」の3つの観点で評価用付箋を記入する。そして全員が付箋を観点別の評価表に貼ることで付箋の分布の様子から、クラス全体の思考の傾向が視覚的に把握できる。司会の生徒がいくつかの付箋のコメントも紹介しながら、よりよいCMづくりのアイデアを集団での議論によってまとめていく。そのことにより、各班とも一度制作したCMについての内容を再構成することができた。また個人の思考も深まり、本授業でのアイデアを参考にしたCMを完成させることができた。

思考ツール

	1	2	3	4	5
	改善が必要				今のまま
メッセージは適当か			□ □	□ □ □	□
メッセージは伝わっているか	□ □		□ □ □ □ □ □ □		
魅力があるか			□ □ □ □ □ □		

(観点別の評価表)

○ → (評価5段階)

∴ ∴ ∴ ∴ ∴

(コメント)

評価用付箋

資料⑥

〔思考力の育成をねらいとした「総合的な学習の時間」授業実践例〕

☆2学年の単元 「地域・らっきょう発信学習」 (集団での思考の育成を目指して)

☆単元・授業について

発信媒体(地域情報誌)に掲載する内容の中で「らっきょう」に関する項目はベン図を通して整理・分析したが、保健教育との関連から「らっきょうと健康の関わり」についてはさらに深めていきたいと考えた。本時の授業は地域情報誌に掲載する「らっきょうと健康の関わり」についての中心記事を決める整理・分析段階での授業である。前時までの学習で生徒の関心に基づき情報収集を行い探究していくことで、その項目を「ガン抑制効果」「血液サラサラ浄化作用」「アレルギー予防効果」「美肌効果」「便秘・整腸作用」「疲労回復・イライラ防止」の6つにまとめている。その6つの項目の価値を認めたいうえで、地域情報誌の表紙の見出しと巻頭原稿を中心記事として定義して、県外の人に「らっきょう」をよりアピールしていくためにはその中心記事を6つの項目から何にすればよいかを集団での議論によって考えていった。

☆本時のねらい

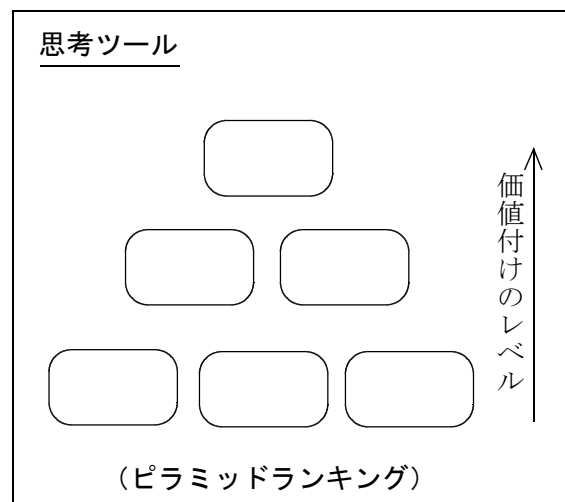
思考ツールを用いて地域情報誌の掲載していく内容を分析する活動を通して、他者の考えと比較しながら、自らの考えを再構成することができる。 【思考力】

☆授業展開

- ① 文化祭でのステージ発表(地域情報誌づくり中間発表)をDVDで視聴する。「らっきょう」と健康に関する部分の発表を見て、本時への意識を持つ。
- ② 班の話合いによって、地域情報誌の「らっきょうと健康の関わり」について6つの項目から、中心記事をピラミッドランキングを作ることで決める。
- ③ 班発表を行い、ランキングが上の項目についてのこだわりやピラミッドランキングの形についてのこだわりを発表する。
- ④ クラス全体の話合いでひとつのピラミッドランキングを完成させ、上の項目を中心記事として決定する。

☆思考ツールの開発と活用

思考ツールとしてピラミッドランキングを活用した。本校が開発したツールであるが、前述のピラミッドチャートとの違いはピラミッドチャートは項目を一つに絞って焦点化していくツールで、ピラミッドランキングは6つの項目の価値を認め、序列化をしていくツールである。よって、本授業の6つの項目についても中心記事は決めるが地域情報誌にはすべて掲載する。班の話合いでは「ガン抑制効果」「血液サラサラ浄化作用」「美肌効果」にこだわりのある班が多かった。集団での議論ではその3つの項目について、県外観光客のらっきょうに関するアンケート結果も判断材料にしながら、練り上げを行った。多くの生徒が、それぞれ調べてきたことを理由にあげながら発表していき、議論の深まりが見られた。



→いろいろな形が考えられる

